

「水と川を見つめて生きる」

山口県 学校法人高水学園高水高等学校付属中学校
二年 大矢 格

水は、人間の生活に欠かせないものだ。昔から、世界の文明は、川を中心に栄えてきた。特に、日本は、豊富な雨量という気候条件や大陸に比べて短い河川と狭い土地という地理上の特性から、豊富な軟水に恵まれており、様々な水文化が生まれ育まれてきている。

伝統的な酒造りや稲作、茶道、豆腐作り、西陣の友禅流しなど、水を中心とした文化が展開され、今まで継承されている。

岩国市にも錦川を中心に酒造りなど多くの水の文化が存在しているが、「鵜飼い」もその一つだと思う。僕は水の文化を探して市内を歩いてみたのだが、その時気付いたことがあった。それは、どんなに小さな溝川にも名前が付いていることだった。人々が昔から川を大切にし、感謝してきた証のような気がした。「白河法皇をしてままならぬ鴨川」と言われたことがあるように、昔の人は、水や川に対して尊敬や感謝の心を常に持っていたのだと感じた。

今、日本では、いたる所に蛇口があり、蛇口を簡単に開けば、安全な水を手にすることが出来る。だから、一見、水は身近な物であると錯覚してしまう。昔のように川から自分の手で汲んできたり、湧き水を手にするのと違って、水道水は、どこからどのように供給されるのか自分の目で見えないという部分があり、本当は却って遠い存在なのかもしれないと思った。水について語るには、水についてよく知らなければならぬと痛感した。

水を知ることが目的ではないが、僕の家族が毎年参加するランニング大会がある。八幡川リバーマラソンというその大会は、陸地を走るのではなく、川の中を走るのである。大会前準備として、地域の方が川を清掃してくださいとお願いしている。地域の人がいかにその川を大切に、生活と密接しているかを、肌で感じる事ができるのだ。

川の中を走ることは、陸地を走るように簡単にはいかない。川底の砂に足をとられ、川の流れに足をとられ、水の恐さを知る。参加する年の雨量によって、川

の深さが違うし、急に深みにはまることもあり、自然というものをいやというほど感じる。反面、暑い中、水を浴びながら走るのは心地よいことだ。そして、走った後ののどの渴きを潤してくれるのも水なのである。水のいろいろな顔と出会いながら、改めて、水がなくては生きていけないことを考えてしまう。

また、水の本当の怖さや悲しさを教えられたのもこの川だ。何年前か、夏の大雨で川の水量が増し、この川で命を落とすという悲しい災害が起きたことがあった。もちろん、その年のリバーマラソンは中止になったが、人間が水に生かされていることを強く感じた。

参加者が走り終わる頃、鯉の稚魚が放される。僕は、虫でなくてほっとしていた。最近虫が環境保護のブームのよういろいろな川に放たれていることが気になっていたので。虫はきれいな川に生息するということになっているからか、わざわざ他の場所から幼虫やカワニナを捕ってきて飼おうとしている。生態系や自然を無視しないでほしい。きれいな川の指標は他で見つけてほしいと思っていたのだ。

しかし、最近、意外な文章を目にした。虫の幼虫は清流だけでなく、僕たちが汚れていると思う生活廃水が流れ込んで富栄養化の進んだ水を快適環境としているというのだ。富栄養化の水が生物の存在を脅かすからと、チッ素等を浄化することばかり考えているのは、もしかしたら間違っているのかもしれないと思っただ。人間中心ではなく、自然の中の人間でなくてはならないのだ。人間にとって良い水でなく、自然にとってより良い水である必要があるということに、今やっ

と気付いた。
水や川を見つめ、真の水や川の姿のあり方を考えながら生き、次の代に「水」を伝えていかなければならない。もちろん、昔の人のように水に感謝と尊敬の気持ちを持つて。

「私と水」

香川県 庵治町立庵治中学校
一年 川 田 裕香子

私は四国の中にある香川県に住んでいます。香川県といえば讃岐うどんのイメージが強いかもしれませんが、大きな問題もかかえています。それは水不足です。香川県は昔から大変な水不足に悩まされてきました。その原因の一つとして降水量が大変少ないことが挙げられます。全国の平均降水量は千七百十四ミリメートル。それに比べ香川県は千二百ミリメートルと大変少ないことが分かります。夏になると香川県では日照りがよく続きます。雨があまり降らなくなりません。昭和四十八年、香川県では「高松砂漠」と名付けられたほどの大変な水不足になりました。十年前にも日照りが続き水不足になりました。私がまだ幼いころなのでよくは覚えていませんが、先生はこう言っていました。

「そのころは早明浦ダムから香川県に水を通水していました。高知県でも日照りが続いたため、ついには早明浦ダムの底の村役場の屋根が見えました。テレビで見ただけで、今でもとてもあの映像が心に残っています。」

と話してくれました。お母さんも水の出る時間が決まっていたのでとても不便だったと言っていました。私はそんなことを一つも覚えていなかったのでびっくりしました。私は校外学習で早明浦ダムに行きました。ダムにはたくさんのお水があったのでこれならもう水不足にはならないなあ、大丈夫だな、と思いました。でも先生やお母さんの話を聞くと、水はやはり大切にしなればと思えました。

私達の身の回りにはたくさん水が使われています。人間をはじめたくさん動物達が水を飲んだり浴びたりして生きています。今、私はごく普通に水を飲み、ごはんを食べ、顔を洗い、歯を磨き、お風呂に入っています。でもこのようなく普通の生活をするためには水がなくては生活できません。もし水がなくなったらのどが渴きます。おなががすきます。顔も髪も歯も汚れます。水をなくして私達はどのように生活していけばよいのでしょうか。きっと生活していけません。

私達にとって水は欠かせない、なくてはならないものになっています。

香川県では不足している水を高知県の早明浦ダムに補ってもらっています。早明浦ダムの底には村があります。早明浦ダムの建設前その土地はある村でした。村の人の協力がなければ、香川県はまだ深刻な水不足に悩まされていたことでしょう。今、何気なく使っている水も誰かの協力があつたはず。その水を一粒のしずくから大切にありがたく使わなければならないのではないのでしょうか。

さて、未来の水を考えたことはありますか。年々日本の降水量が減ってきています。これは今問題になっている地球環境の悪化と関係していると思います。また、最近海や川、池などにゴミを捨てる人がたくさんいます。これも水を汚すことになります。小さなことからでも、人間が水を大切にしようと思えば、未来の水はきっと変わると思います。水を大切にせず、ゴミを捨て続けるというならば未来の水はもっと汚れているでしょう。未来の水を変えられるのは、私達人間です。

未来の水に私達ができること。小さなことからでも始めよう、がんばろうとする気持ちで第一歩。私達にはたくさんできることがあります。節水、再利用など数えきれないほどあります。私達にとっては小さなことかもしれないけれど、未来を大きく変えることになるかもしれません。

私は水が大好きです。夏はプールで水遊び、渴いたのどをうるおしてくれませう。そんな大好きな水がいつまでもありますようにと、これからも水を大切にしたいこうと思います。家族や先生、友達にもこのことを伝えたいと思います。まだ遅くはありません。今からでも未来の水は、きっと変わるはずですよ。

「水は我が家の生命なり」

愛媛県 御荘町立御荘中学校
三年 中尾優志

四国八十八ヶ所霊場、四〇番、観自在寺の門前町で、参詣客を迎えて小さな宿屋を営んでいた我が家の裏庭に、深く清く跡した井戸の水。今でも、池の鯉や家族みんなの「生命の水」として重宝がられている。

正月の書き初めや、七夕まつりのたんざくは、水道のみずでなく、必ず、この井戸みずを硯石に汲み取り、墨をすって家族みんなで書くのだが、祖父は毎年、決まったように、

「水は、我が家の生命なり」

と、太い筆で勢よく書き上げたあと、いつもの『家の歴史と貴重な井戸水』の話をはじめ。

商店街の中心にある我が家のすぐ裏に、幅八〇メートルほどの僧都川が流れる。

子供の頃は水も清く豊かで、泳いだり魚を釣って楽しみましたが、上流にダムが完成し町にビルが建ち、人々が、電気・水道生活にスイッチしてから、川の水位が下降し、我が家の井戸水も激減。

白装束のお遍路さんも、団体バスでお参りする家が多く、国道五六号線に沿って改築増設したホテルに宿泊する様になって、駐車場にも苦勞する我が家は、とうとう旅館をあきらめたと言う。

でも、「この井戸水はおいしかった。冷たくて気持ちよかった。」と、四〇番札所参りのあと、立寄って下さる昔のなつかしいお客さんの声を聞くと、祖父母の顔がほころぶ。

今のぼくと同じ十四才で海軍少年兵となり、横須賀や佐世保の海軍基地で心身を鍛え上げられた祖父は、甲板訓練や、長い艦内生活で降雨を乞い、一滴の雨水が生命の水となり、少年兵の心をうるおしたものだ、声を大にして説く。

夏の野球練習は、終わりのあいさつが済むと、部員は夢遊病者のように先ず水道蛇口に向い頭から水をかぶる。そんなとき、水を大切に使えよ!!と祖父が視て

いるようで気にかかる。

降雨を天然シャワーとしたり、ドシャブリの雨の中、甲板に並んで洗濯物を踏んだりたいたりして洗い、水を合理的に使う話などは、父母も聴いて感服。

家族みんなが、水の使い方を考えるようになった。

お金の節約と同じように、無駄な水を使つてはいないか？

自分で出来る節水はないか？

真剣に考えた。

そして、今年中学生となった妹は、家の水道の漏水は無いか、蛇口の締め忘れはないか、家の内外を、しっかりと点検する当番とした。

ぼくは、生徒会役員と相談して、毎週水曜日の昼休みに学校の手洗い、理科室、体育館、特別教棟など校内外の水道蛇口、元栓など点検することにした。

調理、保健室、体育館など、屋内だけでも二百個近い数である。プールや花壇など屋外も含めると二百五十個余の蛇口、プッシュボタンがある。

生徒会役員三人が手分けして巡回視しても水曜日の昼休みは、ぼくには無いも同然。

でも、体育館のトイレや、体育運動部の部室前の手洗い・足洗い場の蛇口が、ポトポトと締め忘れが多いと告げ、注意をうながすと翌日ピタリと止まり、試合成績まで好結果を示してくれたときはこちらまで嬉しくなる。

幼い頃、四〇番札所の縁日ですくった金魚を入れた庭の池も、水が乏しくなつて心細い。

永く飼育して来た鯉が死ぬと、家族を亡くしたようで淋しい。

自然の流れに逆らうことは許されないが、人間の力で、水だけでも、清く豊富なもの姿にもどりたいと、我が家の池を見ながら、今日も考えさせられるのである。

「水と共に生きる」

愛媛県 今治明德中学校
三年 矢野 さおり

普段の生活の中で、水の存在は身近すぎて、貴重なものであることを、あまり意識してはいなかった。欲しいときに、欲しいだけいくらでも水道から出てくる。どこの街でも手軽に買うことができる。ためらうこともなく、そのまま飲むことができる。そんな私の水に対する意識は、台ダムについて学んだことで変わってきたと思う。

私は、瀬戸内海の越智郡大島に住んでいる。瀬戸内海にはたくさん島々があるが、いずれも、大きな川はなく、ため池や地下水を利用しているところが多い。私の住む島も同様である。

台ダムは、有史以来、慢性的な水不足に悩んできた、越智郡諸島約二万五千人の島民を潤す命の水と言われる。特に昭和五十三年の干ばつの際に、海岸付近の水田が塩害を被り、深刻な水不足に見舞われたそうだ。水道施設の大部分が、断水または、給水制限を余儀なくされ、その状況は悲惨を極めたというのである。二十四時間、いつでも好きなだけ水が使える現在の状況が当たり前の私には想像もつかない苦労と苦悩があったにちがいない。

この昭和五十三年の干ばつによる被害から早急な対策が望まれ、登場したのが、台ダムである。長い間悩まされてきた水不足解消が目的であり、たくさん島民の期待が寄せられた。生活が安定し、地域社会に潤いがもたらされるからだ。

台ダムがつくられてから、貯水が行われ、洪水調節や農業用水も確保できるようになったそうである。台ダムの水は、近隣の三つの島で利用されている。ダムができてからの便利な生活しか知らなかった私。身近で、どこでも手に入る水の存在は、実は貴重なものであったのである。私が今使っている水にも、古くから苦労してきた人たちの力や思いがこめられていたのである。自分の中で水に対

する意識がどんどん変化していくのを感じた。さまざまな人の手を経て、時間を経て、水は私たちに届けられていたのだ。

地域によって、水事情は違う。そして、悩みもたくさんあることだろう。しかし、誰もが、安全でおいしい水を望んでいる。私たちの身体も生活も、よい水がなくては成り立っていかないのだ。

安心して水が使えるということは、本当に有り難いことだ。その裏には、どれだけの人たちの努力があったらだろうか。

ダムを造る人、水を送る人、水をきれいに保つ人、そして、ダムのある街の人々の協力と理解。ダムと水を通じて、人々のつながりが広がっていくように思える。

命の源である水を大切にし、その環境を守ることは、地球の環境を守ることである。水は、地球が与えてくれたかけがえのない資源である。自分の身の周りの水環境を守ることは、終わりのない、私たち自身の課題なのだ。

私たちの生活をめぐる水は、長い旅を経て必ず私たちのところに返ってくる。すべての生物の「命の水」が、これから先も美しく輝いているように、自分の生活を見つめ直していきたい。

今、私の手にふれた水は、島を囲む美しい海につながり、未来の人たちの命につながっていくのだから。

「ダムの植樹祭に参加して」

福岡県 小倉日新館中学校

三年 福永尚子

私は、小学生の時、ジャン・ジオノ原作の「木を植えた男」という本を読みました。そして、主人公であるエルゼアル・アフィエという羊飼いの男の人が、たった一人で何の名譽も報酬も求めずに強い意志をもち、長い年月をかけて荒れ果てた土地に木を植えていくという話に感動しました。また、この本から私たちが生きていくために必要な水と植物との関係についても知りました。雨が降るとその水が木の葉や枝を伝ってゆっくり土にしみこみ、時間をかけて川の水になります。もし木がなかったら、雨水は直接あつという間に土に吸い込まれ、土砂がくずれたり流れ出したりしてしまいます。だから、水と植物には深く重要な関わりがあるのです。

私たちが住んでいる北九州市では、八つの貯水池から取水を行っていて、その中には北九州市以外の場所にあるものもあります。その中の一つである油木ダムで今年の三月に植樹祭があると知り、私は「木を植えた男」の話を思い出し、植樹を体験したくなって参加しました。

当日、油木ダムに行く途中のバスの中で、北九州市水道局の方のお話を聞き、水を育む森林のはたらきについて勉強しました。森林の土壌は、雨をゆっくり吸収して蓄え、時間をかけて川へ送り出します。森林の土壌が雨水を浸透させる能力は、裸地の三倍もあるそうです。さらに、土砂が流出したり崩壊したりするのを防ぐ機能があり、水が濁るのを防ぎます。また、雨水などが森林を通して溪流に流れ出るまでに、赤潮などの富栄養化の原因となるリンや窒素などの物質は、土壌の中に残されたり、植物に吸収されたりします。一方で土壌中のミネラル成分などが溶け出します。このような様々な働きにより、森林はおいしい水を作るのだそうです。

このような勉強をしながら、一時間あまりを要して到着した油木ダムは、深い

山の中にあり、自然がいつぱいのとてもきれいな所でした。水が、こんなに遠くからはるばる私たちのためにやってきているのかと思うと、とても貴重なものを感じられました。また、地域の方たちが、このすばらしい自然を守っていてくれるのだと思うと感謝の気持ちでいつぱいになりました。

植樹祭では、何百人もの人が集まってダムの斜面に約一万三千本もの苗木を植えました。地面はとても硬く、私の用意していた移植ゴテではなかなか穴が掘れず、一本植えるにも大変苦労しました。腕が痛くなったり、自然を守るため、きれいな水のためだと思って、一生懸命に地面を掘って植えました。すると、自分がほんの少しでも貢献できているような気がして、うれしくなりました。

植樹祭に参加して、改めて自然の大切さや木の重要性について考えました。それから、私たちの命の源である水と植物との関係についていろいろ勉強することができました。蛇口をひねればいつでもきれいな水が出てくることを当たり前のように思っている今の生活ですが、この植樹祭を通じて、清潔で安全な水をいつまでも得るために、私たちが守っていくべきことや努力していかなければならないことなどがあることを実感しました。私にとって、とても貴重な経験になりました。

「生物を支える水」

熊本県 田浦町立田浦中学校
三年 鶴 田 桜 子

「私たちの生活に欠かせない水」私は、普段の暮らして意識することは、ほとんどありませんでした。でも、ある年の夏、大型の台風が私たちの地域に影響を与え、数日間家庭の水道の水が出なくなってしまうことがありました。それによつて特に困ったことは、水洗トイレを使用するときでした。普段は自動で流れるトイレですが、その時は配給されたり、発電機でくみ上げた水をバケツですくつて、タンクに貯めて、と手間のかかる作業をしなければなりませんでした。普段の生活でもあまりにも便利なものに頼ってしまい、いざ災害によつて水がなくなつてしまうと、本当に困ることばかりでした。他にも、いつも容易に飲んでいける水を飲めなかったり、洗濯・炊事などで水が使えなかったりしました。やつと水道が回復し、水も飲めるようになった時は、水の本当のおいしさ、大切さ、どんなに欠かせないものであるかを実感することができました。

また、きれいな水が私たち人間だけでなく、他の生物にとつても大きな存在であることを最近改めて強く感じるようになりました。そう感じるようになったのは、夏の夜、家の近くの川で優しい光を放ち、舞い飛ぶホタルを見てからでした。それまでは、他の地域に行かなければ実際にホタルは見られず、自分の家の近くでホタルを見ることができるといふことは夢でしかありませんでした。だから初めて庭先まで飛んで来たホタルを発見したときは、本当に驚きました。それから夜になると家の外に出て、ホタルを見ることが楽しみになりました。それまではどこにもある汚れてしまった普通の川だと思っていたのですが、ホタル出現によつて私の川に対する想いは特別なものになっていました。川の草むらをよく見ていないとわからないぐらいの数しかいなかったホタルが、目を重ねるにつれて、少しずつ増えていきました。そんな時に、なぜ近年からホタルがこの川に住むようになったのかを考えるようになりました。ホタルが住むということ

は、川の水が以前に比べてきれいになった証拠だと思い、それを家族に尋ねてみました。すると、家庭排水を直接川に流し込むことがなくなったこと、それと川のゴミが減つたからではないかということでした。以前は家庭排水が直接川に流れ込んでいて水も汚れていたけど、現在は浄化槽の整備が進んでいてほとんど水はきれいになっていそうです。またゴミが減つたのは、初夏に川の掃除を地域で行っているからということも知りました。また、地域住民の環境に対する意識も高まつてきたこともあげられます。こういった生活の進歩や地域の取り組みが水をきれいにし、ホタルの住める環境をつくつたというのはとても素晴らしいことだと思いました。

だからこれからも、私たちの手でこの環境を守り続け、人間の清らかな心はきれいな水を生み出すんだということを忘れないようにしたいと思います。

私は、これから生物と水との深いつながりをさらに考えていって、水が無駄に使わない努力をしていこうと思つています。そういう気持ちを持つことが地球に住む全ての生物を支えてくれている水を大切にすることにつながっていくと思うからです。

「水と人との支えあい」

大分県 竹田市立祖峰中学校
三年 佐藤 晋哉

僕の住む竹田市は、名水の里として有名です。きれいな湧き水がいくつかあり、それを目当てに連日、たくさんの人々がおとずれます。また、昔は水田に水を入れるのに、水路が整っておらず、水争いがおこっていたそうです。しかし、円形分水というものを造り、平等に水を使うようにしました。白水ダムというダムもあり、水の流れ落ちる様子は、流線型がとても美しく、白いカーテンの様です。水は、私たちののを潤し、作物を育て、いろいろな恵みをあたえてくれます。

しかし、毎日の生活に欠かすことのできない水が、突然使えなくなったことがあります。原因は、水道管の破裂です。僕の住む地域は、約九キロも離れた円形分水を通して水を各家庭に運んでいます。その途中にある水道管が破裂したことで、多くの家が水を飲むことさえできなくなりました。普段なにげなく口に入っている水が、洗濯に使う水が、花や作物にあげる水が、たった二、三滴のしずくとなりました。

そして次の日から、父や、地域の人々が、失われたライフラインを取り戻すために、破裂した水道管の修理をはじめました。しかし、破裂した水道管の見当がつかず、二週間もの時間をかけ、修理場所を探しました。その間、水道の水を使うのを最小限にとどめ、水が出たり、止まったりの毎日でした。破裂した場所を見つけ、いよいよ修理に取りかかり始めました。しかし、その時は二月。とても寒い中、朝から夜遅くまで、父と、地域の人々は修理をしていました。修理から帰ってきた父の手足はとても冷たく、寒さで震えています。修理には二日かかり、修理が終わった父は、

「破裂した所を見つけるまでが大変だった。」
と、言っていました。それもそのはず、水道管の修理にたずさわった人達はみんな、自分の仕事を休んで、約十六日間も厳しい寒さの中地域のために作業していたのです。

この出来事を通して、僕は水の大切さと、その水を支えている人の大変さを、改めて感じました。水は、動植物が生きていく上で欠かすことのできないものです。それと同じで、その水を「守る人」も、欠かすことのできない存在なのです。

僕の学校では、学校への行き帰りの時に、ゴミや空き缶を拾う活動をしています。ゴミや空き缶は、川などにも捨てられています。それが原因で、長い時間をかけて、きれいな水が汚れた水へと変わっていきます。汚れていく水を、ただ眺めているのではなく、少しでもきれいな水にするため、ゴミを拾います。

「きれいな水を保つこと。」
それが、名水の里に住む者としての義務だと思っています。僕たちに恵みをあたえてくれる水に感謝し、その水を守るためにゴミを拾う。そんなつながりを持ち続けることが、大自然への感謝の気持ちを表す、唯一の恩返しだと思います。

名水の里に住む一人として、水を守ること。これが、僕をしていかなければいけない事であり、今も昔も変わることなく、人々がしてきた事なのです。他にこれといって特別なものはないけれど、自慢できるのは豊かな自然と美しい水です。これからも水が汚れることのないように、小さな事ですが、毎日ゴミや空き缶を拾っていきたいと思います。

「水を思う心は今も昔も同じ」

鹿児島県 十島村立平島中学校諏訪之瀬島分校
二年 園山 智恵美

「淡水化装置の部品が一部壊れたので、次の船が部品を持って来るまで、節水にご協力お願いします。」

という放送が流れてきました。それまでまったくいいほど、節水の意識をもっていなかった私を、ショックと船が来るまでどうすればいいのかという不安が襲いました。

次の船は三日後。その三日間は、たくさんの水を使ってしまうため洗たくもできず、皿を洗う時もこまめに水を止め、洗剤もなるべく使う量を減らすなど、常に節水を意識しました。お風呂に入ろうと思った時も、入る前に節水を思い出して、よく考えた結果、お風呂のお湯はためずに、シャワーですばやく終わらせるように努力しました。いつ淡水化装置の水が無くなってしまふのかと、本当に心配でした。

以前のように赤い土の混ざった水や、乳白色の水がでてやけどをした手も冷やせない、刃物で切ってしまった指も洗えないということはない。ましてや水が少なくなり、節水をしなければならないということは無いと考えていた時の水不足という体験でした。

私にとって水不足という問題は、とても身近にある大きな問題です。それは、私が鹿児島島の南に位置する吐噶喇列島の諏訪之瀬島という離島に住んでいるからです。島には、川や湖といった水源がなく、地下から水を汲み上げ淡水化装置を利用し、生活用水や飲み水として使っています。

小四の時、淡水化装置が完成し、テープカットの日に淡水化装置の中を見学しました。外からはあまりよく聞こえなかった音が、頑丈な扉を開いたと同時に、パーンと私の耳に入ってきました。自分が想像していた音の大きさよりもはるかに大きな音と、思っていたよりもリズムミカルに鳴り響く機械の音とのギャップ

に、一瞬驚きました。淡水化装置の内部は予想以上に広がったのですが、たくさん大きな機械が置かれていたせいか、圧迫感もありました。水のサワサワと流れる音が耳に気持ちよく入ってきたのを覚えています。

その中で、淡水化装置を小さくしたものを使い説明を受けました。その装置にはたくさんボタンが付いていて、そのボタンを数個押すと、一方のピーカーの中の水が勢いよく汲みあげられて装置の中に入り、水は何枚ものシートを通り、やっともう一方のピーカーの中に戻ってきました。私は、そこで初めて淡水化装置の水を飲みました。今まで口にしていた水の数倍おいしくて、一口飲んだだけで安全な水であることが伝わってきました。

しかし、三日間の断水があるまで、私は「淡水化装置があるからもう何も心配することなく水を使ってもいい。」と思っていたのです。

初めての節水生活で、とても大切なことに気がつきました。それは、今まで不用意に水を使っていたことです。例えば、お風呂をためていたことを忘れ、お湯を出したままにしていたこと、手を洗う時や歯をみがく時も水を出したままだったこと。しかし、そんな時も、(またやってしまった)というぐらいにしか思っていないませんでした。

昔は自然災害や、部品が古くなり故障をしたりして、断水が多かったと聞いています。それでも島民のみんなが協力し合い、節水に努め、水が止まることなく水源の復旧作業を行っていたそうです。

三日間の断水は淡水化装置ができてから、「節水」という言葉を忘れていた私に、水の大切さを思い出させてくれました。水を大切に使う心は、今も昔も変わってはいないので。

これからも節水を忘れず、水はいつも大事に使いたいです。

「百歳の漁師を守るために」

鹿児島県 西之表市立国上中学校

二年 中村 美穂

「種子島の海は最高だ。」

私の住んでいるのは、種子島の最北端。西には太平洋、東には東シナ海、と二つの海をもっています。種子島を訪れる人々の口々から聞かれるこの言葉は、私の気持ちでもありました。しかし、この考えは間違いだったのかも知れません。

私の父は、現在、漁業と農業を兼業しています。つい、十年くらい前までは、漁業だけでも十分生活ができていたのだそうです。海の仕事としては、素もぐり漁をしています。タコを捕るのを得意としている父は、

「長い間タコ捕りをしてきたから、海を見ただけで、タコがどこを歩いていったかがわかるんだ。」

と言います。それだけ、来る日も来る日もタコ捕りに出かけ、実際、素もぐり漁で生活ができていたのです。しかし、そのタコがいなくなると、海の仕事だけでは生活ができなくなってしまうのです。

原因は、白化現象だそうです。白化現象というのは、サンゴが白くなる現象のことです。サンゴが生きていくのに適した水温は、二十五度から、二十九度。海水温が三十度を超えると、サンゴが死んでしまうのですが、死を直前にしたサンゴは、最後に白い輝きを見せるのです。種子島でも、南の海から、白化現象が起きてきて、海一面が真っ白になったことがあります。私の友達は、白くなった種子島の海を、お父さんと一緒に見に行つて、本当にびっくりしたそうです。

白化現象が起きると、海藻や藻も生えなくなりました。そのため、残念なことに、種子島の誇る食材「ながらめ」も極端に少なくなりました。当然、藻などをえさにしているタコもいなくなってしまうのです。

タコがいなくなつたもう一つの原因に、数年前、種子島をおそつた豪雨災害もあるそうです。大雨が降り続き、風も強く、大型台風みたいだった豪雨災害。十三年しか生きていない私の人生の中で、一番恐い思いをした出来事でした。この

豪雨災害で、海の環境は荒らされ、タコがなかなか姿を現さなくなったのだそうです。

こうして、毎日のように海の仕事に行っていた父は、農業の方に重点を置くかなくなりました。午前中は海、午後は農業。そんな生活を繰り返している父を見て、(どつちの仕事もできるのはすごいけど、海の仕事がダメのなら、海はもうあきらめて、農業だけにすればいいのに……) 私は、そう思っていました。それでも父は漁業をやめようとはしませんでした。「一匹しかおらんかった」「小さいのしかおらんかった」……そんな言葉を繰り返しながらも、父はやはり海に行くのです。今は、生活できるのは陸の仕事だけれど、父が本当に好きなのは海の仕事なのです。

だから、私は、少しでも海にタコが戻ってくるように、できることから始めました。私は炊事を手伝うことも多いので、油を海に流さないことから始めてみました。サンゴの白化現象の原因になっている温暖化については、ほとんど知識がないので、これから情報を得て、自分にできることを考えていきたいと思えます。また、海を守るために西之表市が取り組んでいる「天然洗剤の使用」「海の掃除」「森の木を増やす」「伊勢エビ・ナガラメ漁の自粛」にも協力していきたいです。

海は私の生活になくってはならないもの。その大切な海を作っている「水」は命の源。だからこそ、私が、環境汚染を食い止める存在になりたいです。まずは種子島に住む人々が海をきれいにし、その活動が広がって、日本中の人々が、そして、世界中の人々が海や水をきれいにしようと心がけるようになれば……その先には、百歳になった父が、毎日、海に出かけ、毎日、海にもぐり、種子島の海を守っている姿があるような気がします。

「命の水を・・・」

沖縄県 上野村立上野中学校
三年 上 地 裕 子

「あがいうすかなあ水を出して」いつもは優しい祖母が私達を叱りつけます。「おばあ達の若い頃は、井戸から水を汲んだものだが、近くに井戸はないもんだから遠い所まで何回も通って、頭に水がめをのせて運んだものだよ。だから、昔の人は腰が曲がり小さいさあね。あんた達はいいねえ。家の中にいて、蛇口をひねれば水がでるんだから」祖母は、若い頃の苦労話を続けます。私は、祖母の話をお聞きした時に、当時の人々の「水」への深い思いが感じられ、「命の水」という言葉をかみしめます。

現在、日本全国に上水道が完備されていて私達はごくあたりまえに飲料水や生活用水として使っています。しかし、この地球上に目を向けると、水資源が乏しいために、人々の生活の向上が障げられている国が数多くあります。このような事を考えると、自然に恵まれ水が豊かな日本に住む私達は、とても幸せです。

さらに、私の住んでいる宮古島の水事情を見つめると、祖母が若かった頃と比較にならないほど大きく変化しました。各部落にあった井戸や雨水を貯める家庭のタンクは利用されることなく今ではすっかり消えてしまいました。それに、国によって整備された「地下ダム」は、宮古島の農業に大きな影響をもたらした発展させています。

琉球石灰岩から成る宮古島の地質と地形を有効利用した地下ダムは、昔、川も山もない宮古の人々が知恵をしばり、雨水をタンクに貯め大事に大事に使った歴史を、私に想像させます。飲み物に利用した泉の一滴の水もコップ一杯の水も、満々とたたえられているであろう地下水も、私達人間にとって大切にしなければならぬ宝物だと心から思います。

たしか、「日本の名水特集」というテレビ番組で、この宮古島の平良市にある盛加ガー(湧井)が選ばれました。「宮古島にこんな風景があるんだ。まるで、ドラ

マに使えそうな絶壁の風景を目にして私は盛加ガーに行ってみたくまりました」家族で早速その場所に向かいました。盛加ガー入口にある説明書の前に立ち、下に広がる風景にびっくりしました。回りをかこんだごつごつの岩。下までと続く百数段もあるうねった石段。こんな場所から遠く離れた人里までどうやって水を運んだかと思うと改めて昔の人の強さを感じます。足場が悪く何度も何度もすり、尻もちをつきながらの到着です。手ですくって飲むと、のどに優しくふんわりとして甘みを感じる水でした。

他にも宮古島では自然に流れる湧水が多くあり、どれもこれも水道が発達しない頃飲料水や生活用水として利用されていたそうです。枯れる事のない宮古島の水を願う人々は手を取りあい、守っていかなければいけないと思います。私達の命を保っている水も一滴一滴生きていると私は思います。

全国ネットで名水と呼ばれナンバーワンをかざった小さな島の名水所。何年もの年月をへだて便利な世界へと続く、私たちが大人になる頃もつと変わっているでしょう。私たちの生活にかかすことのできない水。この名水を汚すのも保つていくのも私たち人間に任せたい。私たちはこの裕福の時代に何ができるかではなく、何をすべきなのかに心を置き換えて、考えていく必要があるかと思っています。

「インドネシアに暮らして」

インドネシア バンドン日本人学校
一年 村田拓斗

昨年九月、僕は、父の仕事の都合でインドネシアのバンドンに暮らすことになりました。インドネシアに暮らして半年以上になりますが、生活していく上で、してはいけないタブーがいくつもあります。そして、その中には水に関することも決して少なくはありません。

まず、インドネシアでは水道水を飲んではいけません。また、カットフルーツ、生野菜を食べてはいけません。なぜなら、インドネシアでは、とても水の事情が悪いからです。

インドネシアの水道局は、水道水を三日に一度しか流していません。つまり、三日目の水は三日前の水、ということになります。しかも浄化設備も不十分な上に水道管も古く、さびだらけの赤い水さえとときどき出てきます。だから、日本にいた時のように、運動した後に、水道水をごくごく飲めませんし、学校へは毎日水筒を持っていかなくてはなりません。飲み水はスーパ等で買わなければいけませんし、歯みがきをするにもその水を使います。また、家庭科で調理実習をやる時はとても大変です。蛇口から出る水で野菜や調理器具を洗うわけにはいきませんから、買ってきた水をボールに入れてその中で野菜などを洗わなければいけません。これは毎回の食事の時も同じです。インドネシアのレストランで出される水も何の水を使っているか分からないので飲んではいけませんし、カットされたフルーツ、生野菜を食べてはいけないのもそのためです。もし、誤って口にしてしまったら、激しい腹痛と、数日は続く下痢に襲われてしまうでしょう。

インドネシアでは、もう一つ水が人々を困らせている事があります。洪水です。洪水は雨期（十一月～四月）に起こります。洪水が起こる理由は、雨がたくさん降るのにもかかわらず、上下水道が整っていないからです。僕は、インドネシアに来て初めて洪水というものに出会いました。激しい流れに、いたる所に落

ちているゴミのみこまれていきます。それはまるで、急に一本の川ができたようでした。洪水は、交通渋滞をひきおこし、道路をデコボコにします。

その一方で、乾期には水不足が起こります。雨がほとんど降らない乾期は、半年ぐらい続くので、水が不足してしまうのです。

インドネシアは、雨期には洪水、乾期には水不足という、水にはかなり手を焼かされている国なのです。

こうしてみると、日本は非常に水に恵まれた国だと思います。蛇口さえ開けばいくらでも自由に水が出てきます。でも私たちは、発展しすぎた文明の中で、水は当たり前であり、当たり前に使えるものだと思っていて、水のありがたさを忘れていたのではないのでしょうか。

最近では都市部ではミネラルウォーターを買う世帯が多いと聞いています。また、僕の以前住んでいた奈良のように、夏に水不足が起こる地域もあります。

僕はインドネシアに来て初めて、水の大切さを実感しました。けれども正直言って、これまでの僕は、水を大切にするために何かをするということはありませんでした。多分僕と同じような人は少なくないと思います。だからこんな僕が、まず水について考え、自分の生活を振り返ることが大事だと思ったのです。

今の僕は力小さく大したことはできません。けれど、このインドネシアで体験し、実感した水の大切さを心にとめ、生活していきたいと思っています。

8月1日～7日は「水の週間」
8月1日は「水の日」です。

水について考えよう!

考えてみよう。当たり前にある水が実は
当たり前じゃないかもしれない、ということ。

人間は水なしには生きられません。水は、私たちの日常生活だけでなく農業や工業などの産業活動を支える重要な資源なのです。しかし、水はいつでも安全に手に入るもの、と思っている人が多いのではないのでしょうか。

ちなみに、昨年3月に日本で開催された「世界水フォーラム」では、世界で12億人もの人が安全な水にアクセスできず、24億人が十分な衛生サービスを受けられないと報告されました。世界では水が安全に手に入るのは決して当たり前ではないのです。

実は、日本も様々な対策なしには、安全に水を得ることは出来ないのです。また、日照りが続けば日本でも水が出なくなる可能性もあるのです。

みなさんの身の回りの水が、どのようにして安全に得られているのか、「水の日」「水の週間」を機会に考えてみませんか。

第26回全日本中学生 「水の作文コンクール」

■募集案内

- テーマ 水について考える（題名は自由）
- 例題 「大切な水」「水不足を体験して」「命を支える水」「ダム役割」「水と暮らし」「水源を守る」「水のある風景」等
- 原稿 ①400字語原稿用紙4枚以内、日本語で記入された個人作品
②学校名（ふりがな）、学年、氏名（ふりがな）、性別を題名の次に明記してください。
- 募集期間 平成16年4月1日（木）～5月15日（土）

- あて先 各都道府県水資源担当当局
- 中央審査会の賞
 - 最優秀賞…賞状、盾、副賞……………1名
 - 優秀賞…賞状、盾、副賞……………4名
 - 入選…賞状、副賞……………約30名
 - 中央審査参加賞…メダル……………約100名

- 表彰 最優秀賞及び優秀賞受賞者を「第26回水の週間記念式典」（東京）に招待し、賞状等を授与します。
- 主催 国土交通省 都道府県
- 後援 文部科学省・全日本中学校長会
独立行政法人水資源機構
水の週間実行委員会

入賞通知 7月中旬に入賞作文を決定し、入賞者へ通知します。

詳しくは、「水の日」「水の週間」についての国土交通省のホームページ (http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/mizsei/h_event_pr/event_pr01.html) をご覧下さい。

—— 第 26 回「全日本中学生水の作文コンクール」概要 ——

第 28 回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

- 1 応募要領
- ① テーマ……「水について考える」（題名は自由）
 - ② 対象……全国の中学生及び外国に居住する日本人中学生
 - ③ 原稿枚数……400 字詰原稿用紙 4 枚以内
 - ④ あて先……中学校の所在都道府県水資源担当部局、ただし、外国に居住する者にあつては国土交通省土地・水資源局水資源部
 - ⑤ 募集期間……平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 5 月 15 日（当日消印有効。ただし、外国に居住する者にあつては、6 月 1 日までに国土交通省土地・水資源局水資源部あて必着）
 - ⑥ 著作権等……○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作文の著作権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

2 応募状況

応 学 校	募 数 校	応 総 編	募 数 編	学 年 別		
				1 年 編	2 年 編	3 年 編
452		16,488	5,595	5,655	5,238	

- 3 審査 応募作文 16,488 編のうち、都道府県段階等の地方審査を経た 140 編を対象に、平成 16 年 7 月 8 日開催された中央審査会において、最優秀賞 1 編、優秀賞 4 編及び入選 35 編あわせて 40 編の入賞作文を決定

4 表彰

(1) 賞および賞品

	賞	賞 品
最優秀賞	国 土 交 通 大 臣 賞	賞状、盾、 デジタルカメラ
優 秀 賞	国 土 交 通 省 水 資 源 部 長 賞	賞状、盾、電子辞書
優 秀 賞	全 日 本 中 学 校 長 会 会 長 賞	賞状、盾、電子辞書
優 秀 賞	水 の 週 間 実 行 委 員 会 会 長 賞	賞状、盾、電子辞書
優 秀 賞	独 立 行 政 法 人 水 資 源 機 構 理 事 長 賞	賞状、盾、電子辞書
入 選		賞状、電子辞書
	中 央 審 査 参 加 賞	記念メダル

(2) 表彰式 最優秀賞及び優秀賞の受賞者を平成 16 年 7 月 30 日、東京において表彰

5 中央審査委員 (あいうえお順、敬称略)

赤川 正和 (社)日本水道協会専務理事)

須磨佳津江 (キャスター)

長崎 宏子 (スポーツコンサルタント)

仁井 正夫 (国土交通省土地・水資源局水資源部長)

福田 昌史 (独立行政法人水資源機構理事)

藤崎 武利 (全日本中学校長会会長)

6 主催者等 主催：国土交通省、都道府県

後援：文部科学省、全日本中学校長会、水の週間実行委員会、
独立行政法人水資源機構

第 26 回「全日本中学生水の作文コンクール」地方審査優秀者名簿

都道府県名	氏 名	氏 名	氏 名
北海道	○上山 ちづる	木村 聡美	坂本 凌一
青森	土岐 千尋	小山 恵未	澤谷 惇史
岩手	瀬川 遼太	赤澤 智子	梅津 利之
宮城	○遠藤 愛子	鎌田 歩	高橋 彩華
秋田	白戸 理沙	斉藤 成美	斉藤 好美
山形	●植松 未知	小野 千晶	田中 浩二
福島	下間 隆史	武藤 千聖	○増田 歩実
茨城	○稲生 歩美	安島 沙希	藺部 梨沙
栃木	岩見 朱里	加藤 幸恵	鈴木 佑佳
群馬	村田 圭祐	松本 友香	奥泉 亜美
埼玉	木村 蒔恵	山口 友弥	宮本 愛
千葉	○中川 美和子	蛭田 拓哉	○中村 早央里
東京	永井 美穂	成川 可那子	馬目 実来
神奈川	佐々木 祐樹	○井上 茜	中山 るみ子
新潟	宮澤 杏奈	行田 莉奈	川崎 優季
富山	梶 雄大	松本 かおる	満保 祐己
石川	田中 みず恵		
福井	伊藤 育子	○船橋 充	◎内山 はる菜
山梨	○大塚 美都	○佐藤 彩香	山野 隆史
長野	橋本 ちひろ	許 潤太	村田 奈美
岐阜	岡崎 天小美	広瀬 雄太	中川 深幾
静岡	○臼井 裕香子	○三浦 明日翔	伊藤 美咲
愛知	○片山 皓平	○永田 晃大	河合 諒
三重	○南端 理沙	中条 恭子	村上 久美子
滋賀	○清原 光咲	高橋 涉	瀬戸 暁子
京都	加茂 真美絵	葛目 みなみ	野島 亜悠
大阪	藤田 可朱美	○田中 伶佳	西川 諒次
兵庫	高橋 佳代子	竹内 千晶	水川 真宏
奈良	森本 浩子	野村 浩世	○泉谷 翔太
和歌山	○奥野 舞子	宮脇 理子	辻 響
鳥取	浅田 瑞生	尾崎 久美	荒 香菜絵
島根	◎榎木 エンゾ ^エ ライ ^ン	○岡先 美智子	○祖田 茉沙美
岡山	犬飼 幸恵	◎押目 奈々	山崎 まゆみ
広島	○中本 夏葵	○原 由枝	植田 裕也
山口	○藤村 晃成	下口 也実	○大矢 格
徳島	井上 佳枝	平島 千鶴	村上 愛実
香川	内海 友里	○川田 裕香子	田所 亜依
愛媛	○中尾 優志	○矢野 さおり	藤原 奏
高知	勝賀瀬 真実	徳茂 昂子	山崎 万里子
福岡	大沢 愛	○福永 尚子	福田 晋太郎
佐賀	前田 なつみ	古川 芹菜	田中 友理
長崎	荒木 彩恵子	野口 奈々	林田 果歩
熊本	川部 光穂	村上 将太	○鶴田 桜子
大分	○佐藤 晋哉		
宮崎	◎杉山 真季子	與田 望美	橋口 侑佳
鹿児島	○園山 智恵美	○中村 美穂	岩元 詩織
沖縄	○上地 裕子	野崎 麻衣子	砂川 倫瑠
海外	福地 有吾	○村田 拓斗	前澤 智樹

(注) 氏名の前の印は、中央審査会における入賞者で、●は最優秀賞、◎は優秀賞、○は入選

第 26 回「全日本中学生水の作文コンクール」応募状況

都道府県名	応募学校数	応募総数 (編)	学 年 別 (人)		
			1 年	2 年	3 年
北海道	16	143	28	66	49
青森	10	71	8	18	45
岩手	12	238	85	66	87
宮城	6	21	6	8	7
秋田	2	29	0	29	0
山形	5	13	3	0	10
福島	13	267	76	76	115
茨城	17	968	430	219	319
栃木	11	681	45	393	243
群馬	5	507	16	252	239
埼玉	6	166	15	49	102
千葉	25	786	268	278	240
東京	19	781	177	287	317
神奈川	20	1,370	179	710	481
新潟	7	244	71	71	102
富山	10	1,406	480	521	405
石川	1	3	0	3	0
福井	7	213	59	77	77
山梨	4	137	0	128	9
長野	4	50	2	36	12
岐阜	4	16	0	4	12
静岡	11	555	245	229	81
愛知	10	371	67	127	177
三重	4	221	70	101	50
滋賀	13	686	416	102	168
京都	12	274	70	128	76
大阪	9	85	22	35	28
兵庫	10	651	263	192	196
奈良	5	127	39	72	16
和歌山	17	648	179	186	283
鳥取	1	3	0	2	1
島根	4	16	9	0	7
岡山	4	55	0	28	27
広島	7	133	109	10	14
山口	14	39	12	12	15
徳島	5	37	5	5	27
香川	22	685	628	35	22
愛媛	5	270	147	116	7
高知	2	10	9	0	1
福岡	13	651	38	322	291
佐賀	2	278	241	0	37
長崎	4	313	185	77	51
熊本	35	1,423	616	289	518
大分	4	16	2	6	8
宮崎	10	225	31	115	79
鹿児島	9	514	230	164	120
沖縄	11	74	6	4	64
海外	5	18	8	7	3
合計	452	16,488	5,595	5,655	5,238

(注) 海外は、インドネシア、エジプト、中国、フランス、ブルネイ